

令和6年度 帰国・外国人児童生徒に対するきめ細やかな支援事業 ～すべては子どもたちの幸せと笑顔のために～

山口市教育委員会

目標：学校・家庭・地域のつながりを生かした帰国・外国人児童生徒の支援の実現

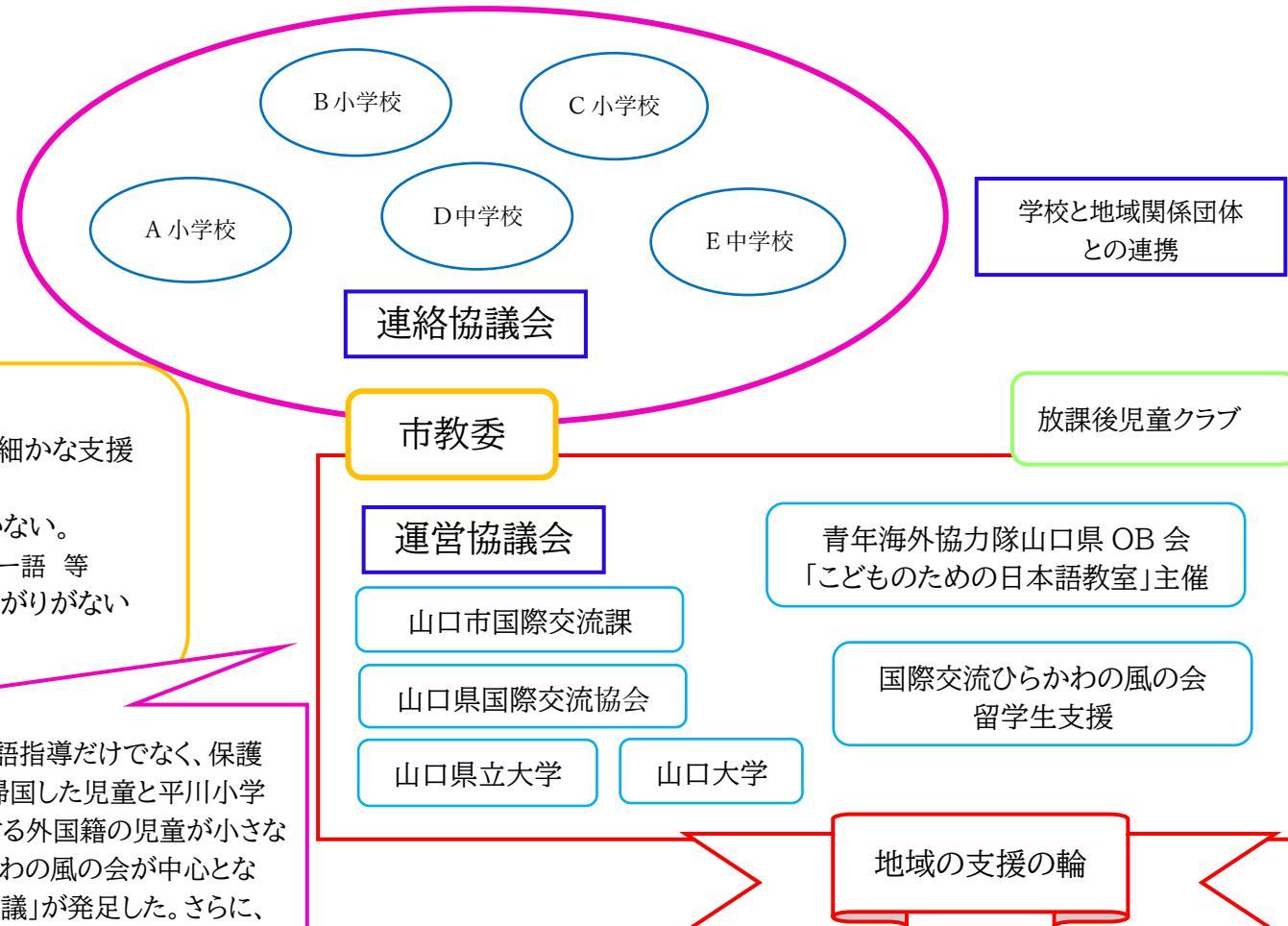
令和6年度 山口市の取組

- ・小中一貫教育を生かした小中の学びの円滑なつなぎ
- ・日本語指導補助員(通訳)の配置
- ・ポケトークの貸与
- ・1人1台端末を生かした個別最適な指導
- ・市内小中学校の共有フォルダによる情報共有

課題

- ・市内の学校に外国人児童生徒が点在しているため、きめ細かな支援体制が取りにくい。
- ・様々な国からの転入があるが、通訳者の配置が追いつかない。
○言語:英語、インドネシア語、ベトナム語 ベンガル語、パシュー語 等
- ・外国人児童生徒の支援に興味をもつ市民がいるが、つながりがないため、支援の輪が広がらない。

常勤の日本語指導教員2名が在籍する平川小学校では日本語指導だけでなく、保護者を講師とした母国を紹介する国際理解教育の授業の実施や帰国した児童と平川小学校とのオンライン交流等が行われており、日本語指導を必要とする外国籍の児童が小さな外交官として活躍している。また、平川小学校と国際交流ひらかわの風の会が中心となり、地域支援団体として「外国ルーツのこども支援ネットワーク会議」が発足した。さらに、本事業により、令和5年度に「外国ルーツのこども支援ネットワーク会議」を土台とし、「外国ルーツのこども支援ネットワーク会議」と兼ねる形で市の運営協議会を立ち上げ、令和6年度は地域の関係団体の活動内容を共有し、帰国・外国人児童生徒の支援体制を構築してきた。令和7年度は各団体の取組について関係小中学校と情報共有を図り、連携を図りながらさらなる支援体制を構築していく。



地域支援の輪が広がることで、外国籍の保護者と日本人の保護者のつながりや外国籍の子どもたちと地域のつながりができ、日常的な国際理解教育にもつながっている。